４つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.580-581
小手澤の森の作業地が拡大しました

【定例活動報告】品川のボラ

3月5日、定例活動日。うす曇り、微風、終了後に少し雨がぱらつきました。中学生たちは、午前中はお寺の裏で間伐。午後は、法面下の竹藪の整備、四阿裏の林の測量、お寺の雑木林入口の階段づくり、に分かれて取り組みました。

3月は、1年生でも約10ヶ月の経験を積んでおり、中学生たちの経験値の合計が最も高くなる時期です。午前中の間伐は、大人が指示をすることも少なく、ほぼ自分たちで活動できていました。

竹藪整備は2月の雪で、大きく曲がって割れた竹の伐採と処理でした。曲がった竹は切る際に跳ね上がる危険があるため、大人が伐り、中学生がその処

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

理にあたりました。
　四阿裏の林は、関係者のご厚意で新たなフィールドとして加わった場所です。大学生の手を借りながら、今後の活動の大切な情報となる測量に取り組んでくれました。
　お寺の雑木林の入口は、数年前に階段を作りましたが腐食と侵食で崩れてしまったため気になっていた場所です。適当な太さの雑木を切り出して、階段の横木とそれを止めるペグも現地調達しての作業となりました。最初は大人が教えましたが、すぐに作業を覚えて自分たちで工夫しながら6段を作ってくれました。
　さて、杉花粉の飛散はピークを迎えており、微風とはいえかなりの飛散量だったと思います。かくいう私も花粉症で鼻が完全に機能停止したため、口で呼吸をしながらこの原稿を書いています。あたかも、ときおり現れてニュースになる、水面で口をパクパクさせている「品川のボラ」のように。

粟田　浩史（本会、理事）

【定例活動報告】知足の森

　今日は最初、お寺の上の木を切る作業をしました。３つのグループに分かれそれぞれ１本ずつ木を切りました。木を選ぶとき、どういう木を選ぶのか全くわからなかったのですがみんなはすぐ選んでいたのがすごいと思いました。木を選んだら倒す方向を決め、切り始めました。そこまで太い木ではなかったのですが、切ってみると思っていたよりも固く交代で切っても時間がかかりました。その次は木にロープをかけ、みんなで引っ張りました。声を掛け合い、手が痛くなりながらも協力して倒せた時は嬉しかったです。倒れる時の『メキメキ』という音も迫力がありました。この作業は１２時に終わり、片付けも協力して行いました。お昼はお寺から少し離れた梅林で食べました。景色がとても良く、作業をした後だったのでいつもより美味しかったです。お昼の後は午前と同じグループで、階段を作ったり、竹を切ったり、敷地を測る作業をしました。私のいたグループは敷地を測ったのですが、困ったときに、一緒にいた大学生が手伝ってくれたのが嬉しかったです。

チャドリー羽奈（北相中学校３年）

　今日は午前中森の間伐を行いました前は奥の方の森を整備していたが今日は左側の森を整備しました。昨日雨が降っていたので地面がぬかるんでいて足場が不安定でした。滑りやすかったので切る時にどうやって足場を安定させられるか意識しました。切る木は決まっても受け口を作るのに時間がかかり難しいなと思いました。受け口を作りチルホールで木を倒すと枝に引っ掛かることなくすんなり倒れたので嬉しかったです。太めの木を切ったので使えそうな木が多く良かったです。
　午後は東屋や沢の周辺の複数の森の探検を行いました。道がないような竹藪だったり線路沿いを歩いたりと過酷でしたが普段通ることがないような道が多かったのでふしきだなと思いました。まだ、通る時に崖があったりそこに自生する木々や草など多くのものがあました。人間でも通りにくくなるぐらい存在する一つ一つの植物の迫力が大きく、人工じゃない、自然の植物の力強さのようなものを感じました。これからも色んな発見を行いながら活動していきたいです。

GREEN TECH ENGINEER LAB　中学２年生女子

桜井尚武の森のコラム

「ヤマボウシ(*Cornus kousa*)とハナミズキ(*C. florida*)」

図1　ヤマボウシの花

20200513汐入公園南千住

図2　ヤマボウシの集合果

20150919小淵

図3　特異な樹皮模様

20190305東京国立博物館上野

図4　ハナミズキの花

20200422汐入公園南千住

図5　ハナミズキの果実
20211002汐入公園南千住

ヤマボウシはミズキ科の樹高10m以上直径60cm以上になる落葉高木。葉は対生し楕円形か長楕円形、4～12㎝位で先端は尖ります。全縁で側脈が葉一面に等しい幅で走るのが他のミズキ属の植物と同様目立ちます。5~6月に黄色の小さな多数の花を球状に集めて開きます。その集合花を大型の4枚の白い総苞片が包みます(図1)。この総苞片が白い頭布をまとった比叡山の僧兵を思わせるとして名付けたという記述がありました。果実は9~10月に一つの大きな球のような集合果となって赤く熟します（図2）。この果実は生食できますしジャム、果実酒、ドライフルーツなどにも適するといいます。

本種は本州の東北地方南部から九州までの山地に普通に生え、朝鮮半島、中国にも分布します。ヤマボウシが多く見られる箱根地方で「くさ」と呼ばれたので種小名を”kousa”としたという記述がありました。種なしスイカを作ったことで有名な木原均博士が、三島の国立遺伝学研究所勤務時代に近くの箱根のヤマボウシの保存に尽力した功績が伝えられています。大きくなると樹皮はまだらに剥げるようになり、特異な模様の樹皮になります（図3）。

ヤマボウシに似た木でそれよりひと月ほど早い今の時期に花を開かせるのがハナミズキです（図4）。アメリカ東南部の分布ですが植栽適地が広く色々な場所で親しまれています。1912年に東京市がワシントン市にサクラを送ったことは有名ですが、その返礼としてアメリカから1915年にハナミズキが送られてきました。これが日本各地にあるハナミズキの始まりです。

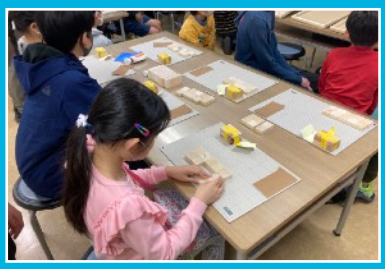
アメリカヤマボウシとも呼ばれますが、苞の先端が窪むのが日本のヤマボウシと異なります。また、集合果でなく、個別の果実が分離して着きます（図5）。綺麗な赤い実ですが果肉は少なく食用には向きません。有毒という情報は見つかりませんでしたが、安易に食べない方がよさそうです。

（桜井尚武　本会会員）

【活動報告】 本会間伐材を活用したワークショップを実施しました

今月はGTE LABの中学生が中心となって、小金井市貫井北町公民館で、小学生向けのイベントを実施しました。その名も「木トリス」、某パズルゲームに似ていますが、中身はいわゆる落ちゲーというものです。正方形の木のピース４、５個で好きな形を作り、次から次へと渡されるピースを上からきれいに詰めていけるか、というゲームです。企画自体は順調にすすみ、参加した小学生も夢中で何度もやっていた姿が印象的でした。一方、GTEラボとしては大きな課題も残りました。この木のピースは昨年の小金井祭での積み木のピースよりかなり小さいものを計画しました。小金井祭でのサイズが作れる（100個200個と大量に作れるという意味で）最小サイズでしたが、より小さいサイズを大量に必要とする企画を作ってしまいました。結果、一部の材料を本会間伐材でまかなえず購入してしまいましたが、学びとしては大きいものがありました。

宮村　連理（本会、副理事長）



参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　patagonia